

# 地域医療学講座

## 年報

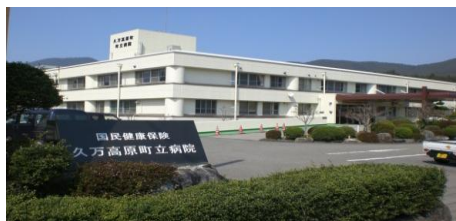
— 第 3 号 —

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座  
〒791-0295 愛媛県東温市志津川  
(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5132

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター



西予市立野村病院



久万高原町立病院

西予市立野村病院

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地  
TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938

久万高原町立病院

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地  
TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

## 目 次

1. 地域医療学講座のこの一年

愛媛大学大学院地域医療学 教授 川本 龍一

2. 「地域医療学講座」年報によせて

愛媛県保健福祉部長 神野 健一郎

3. 久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動

愛媛大学大学院地域医療学 准教授 阿部 雅則

4. 地域医療学講座の教育関連活動

5. 第11回愛媛プライマリ・ケア研究会

6. 第23回日本老年医学会四国地方会および特別講演を開催して

愛媛大学大学院地域医療学 教授 川本 龍一

7. 地域医療学専門研修

8. 平成23年度学生講義

9. 平成23年度地域医療実習

10. 地域医療実習前後のアンケート結果

11. 業績

12. マスコミ取材

13. 編集後記

愛媛大学大学院地域医療学 准教授 阿部 雅則

## 地域医療学講座のこの一年

愛媛大学大学院地域医療学 教授  
川本 龍一

皆様のご支援を頂き地域医療学講座も設立から3年半が経ちました。講座としての方針・運営方法などを阿部雅則准教授と模索しながらの状況ではありますが、サテライトセンター設置自治体・職員、地域住民の皆様のご協力を頂き、様々な取り組みを進めることが出来ました。

東日本大震災から1年が過ぎ、津波による行方不明者はいまだに数千人を超え、福島第一原発事故による放射能汚染問題も解決にはまだまだ遠い状況が続いています。私は愛媛大学医学部医療支援チーム第2班の一員として宮城県石巻市の医療支援活動に参加しました。今回の活動を通して、自然災害の凄まじさ、それに立ち向かう住民のたくましさ、チーム医療・連携の重要性、そして総合的診療能力の必要性について身を持って体験しました。地域医療の崩壊が叫ばれる中、被災地も例外でなく医師不足が問題となっており、継続的な医療支援とともに一日も早い復興を願っています。

この1年の活動報告について、講座の目標である地域における保健・医療・福祉と連携を図りながら実践している3項目に絞って述べさせていただきます。

### 1. 地域での学生や研修医の教育

本年も昨年同様に4月後半から久万高原町立病院と西予市立野村病院に設けられた2ヶ所のサテライトセンターにて実習を行ってきました。5月の連休が明けてから5年生の実習を開始し、9月には1年生の地域枠の実習も実施しました。学生は西予市立野村病院には3名、久万高原町立病院には2名ずつ、月曜日から金曜日にかけて泊り込みでの実習を行っています。職員の一員として、各々のレベルに応じた職務研修という形で多職種から学んでいます。

超高齢化社会におけるチーム医療の必要性が深まるなか、医療や介護にかかわる他職種の人がどのような役割を担い、医師に何を期待しているかを若いうちから知っておくことは重要です。このように学年の早いうちから地域医療を体験することで、地域医療に対する思いを育てていくことが、地域医療の充実には必要であろうと思われま

### 2. 地域医療機関における診療支援

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えていきます。2011年度は初期臨床研修2年目の地域医療研修では、西予市サテライトセンターには例年同様に愛媛大学病院2名、愛媛県立中央病院2名、松山赤十字病院1名、済生会松山病院1名、自治医科大学病院4名の研修医が研修を受けています。一方、地域医療学専門研修では1名が3年間の研修を終え巣立っていきました。引き続き1名が当サテライトセンターにて専門研修を受けています。

高齢化が進む地域においては全人的に医療を展開できる地域医療医の役割は重要であり、地域医療の実践を通して地域における保健・福祉・医療という連携の輪の中で住民のニーズを肌で感じ、医療を実践していく醍醐味を味わうことは、社会貢献にも繋がり医師としての貴重な体験となります。本年4月からは西予市サテライトセンター内に相互方向性のテレビ会議システムが導入され、大学内の地域医療支援センターと結んで、大学での講義や講演をサテライトセンターでも聴講可能となりました。今後、久万高原町立病院にも光ケーブルが整備されれば設置予定です。地域医療を担う医師は、地域で育てることが重要ですが、そのためには地域でもレベルアップ出来る環境作りも重要です。

### 3. 地域に根付いた研究活動

本年度も昨年同様に加齢制御内科学講座の協力を受けた野村地域での調査データにより動脈硬化性疾患の危険因子に関する論文を発表し、さらにその後の死亡や心血管疾患の発症についての調査も終了しました。発症率については他の地域とほぼ同様ですが、横断研究ではリスクであったものが、前向き調査ではベネフィットとなるなどの興味ある結果が出ています。こうしたデータを参考にした住民に対する取り組みでは、いきいき健康大学を引き続き支援し、ノルディック・ウォークによる介入指導により、すでに100名を超えるメタボの人が改善し大学を卒業しています。今後も地域でのリサーチの推進に貢献できればと思います。

この3つの大きな目標の実現を通して微力ながら愛媛の地域医療に貢献できればと思います。恩地教授をはじめ第3内科同門会（黄蘭会）の皆様、また本講座の設立運営に対して寄付を頂いてます愛媛県並びに愛媛県市長村協会に対して、この場を借りてお礼申し上げます。これからも教育・診療・研究と様々な事業で皆様からのご支援をお願いすると思っておりますが何卒宜しくお願い申し上げます。

## 「地域医療学講座」年報に寄せて

愛媛県保健福祉部長  
神野 健一郎

本県の医師の状況を、「平成 22 年医師・歯科医師・薬剤師調査」をもとにみても、平成 22 年末の愛媛県内の医療施設従事医師数は 3,376 人と前回（平成 20 年末）より 8 名減少（0.2%減、全国は 3.1%増）しており、人口 10 万対の医療施設従事医師数で見ると 235.8 人と全国平均の 219.0 人を上回っているといった状況となっております。

更に、人口 10 万対の医療施設従事医師数を圏域別で見ると、松山圏域が 295.9 人と全国平均を大きく上回る一方で、その他の圏域は全て全国平均を下回っており、地域偏在が顕著となっているのが見て取れます。（宇摩圏域：148.6 人、新居浜・西条圏域：198.0 人、今治圏域：175.7 人、八幡浜・大洲圏域：175.7 人、宇和島圏域：214.8 人）

また、本県の医療施設従事医師の平均年齢をみると、平成 12 年時点では、全国平均 47.5 歳を下回る 47.2 歳（全国 30 位）でしたが、平成 22 年時点では 50.2 歳と、全国平均 48.6 歳を上回り、全国で 14 番目に平均年齢が高い県となっており、本県医師の高年齢化が進んでいる状況です。

このように、「地域の医療機関において若い医師が必要」という課題が明確化する中、学生の知識と技量の向上を図るためのきめ細やかな指導や現場における実習を行い、「将来の地域医療を担う医師」を養成する本講座の重要性は、益々高まっているところです。

大学医学部の入試制度と連携して奨学金制度を設けた「地域枠」の学生は、ピーク時には 100 人を超える数となり、9 年間、知事が指定する医療機関に勤務いただくことはもとより、その終了後も引き続き県内の医療機関に残っていただき、地域医療にご貢献いただける医師を育成することが重要と考えておまして、学生に対する地域医療教育を担う本講座の果たす役割に、県のみならず、県内の医師不足に悩む市町も、大きな期待を寄せているところです。

県におきましても、愛媛大学の「地域医療支援センター」整備事業を補助するとともに、若手医師のキャリア支援の仕組みづくりに取り組むなど、地域医療学講座をひとつの柱に据え、地域医療に従事する若手医師の育成環境整備に取り組んでいるところであり、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

“地域で活躍する医師を、地域を舞台に育てる”というコンセプトの実現に向け、本講座を 3 年間順調に運営いただいておりますのも、講座関係者の皆様のご尽力と、愛媛大学医学部、サテライトセンター設置にご協力いただいた西予市及び久万高原町、運営経費の一部をご寄附いただいている財団法人愛媛県市町振興協会の皆様のお力添えによるものと心から感謝申し上げます。

今後も、より多くの医学生や研修医が地域医療への理解と関心を高めていける魅力ある講座として活動いただき、本県の地域医療の充実に寄与いただきますよう期待申し上げます。

最後になりましたが、本講座の発展と、関係者の皆様が、今後ますますご健勝で地域医療の発展にご尽力いただけますことを心から祈念申し上げます。

## 久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動

愛媛大学大学院地域医療学 准教授

阿部 雅則

久万高原町サテライトセンターでの活動も3年間で終了しました。地域医療実習は昨年度と同様に1週間毎に月曜日から金曜日にかけて病院の敷地内で泊まりながら行われています。今年度からは久万高原町を学生さんにより知ってもらうべく、町長・副町長とのランチタイムミーティングを開始しています。また、本年3月には久万高原町にとって長年の祈願であった三坂道路が開通し、松山市からのアクセスも改善しました。今後は冬の実習でも雪の心配が減ることが予想されます。当サテライトセンターのこの1年間の主な活動について報告します。

### 1. 2011年4月18日～5月13日 クリニカル・クラークシップ

医学部6年生の入船悠樹君、大野慎介君、野村信行君、細川貴弘君の4名が当院で1～2週の実習を行いました。

### 2. 2011年5月16日～2012年3月16日 地域医療実習

医学部5年生全員を対象とした地域医療実習を行いました。当サテライトセンターでは各班2名の合計40名が実習を行いました。

#### 【実習スケジュールの1例】

	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション・外来実習・処置室	病棟実習 (全員血圧測定)	内視鏡検査・ 超音波検査	介護実習 (老人保健施設)	外来実習 検査室
					合同ケアカンファレンス
午後	特定高齢者施策	訪問診療	訪問看護	診療所	まとめ

### 3. 2011年9月13日～17日 早期体験実習

本年度も地域枠入学生（1年生）を対象に早期体験実習を行いました。当サテライトセンターでは4名ずつ、計8名が、訪問看護、介護施設での実習などを3日間の日程で行いました。

### 4. 2011年11月16日 久万高原町地域医療「健やか元気なまちづくり」講演会

16時より久万高原町産業文化会館において講演会を開催しました。先端病態制御内科教授の恩地森一先生と当科の川本が講演しました。平日の夕方であったのにも関わらず、一般町民、医療・福祉関係者や行政関係者など約300人が参加し、大変盛会となりました。

会次第（敬称略）

1. 開会挨拶 久万高原町長 高野宗城
2. 講演Ⅰ 司会：久万高原町立病院院長 金岡光雄  
「地域医療における地域を活性化する取り組み」  
愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本龍一
3. 講演Ⅱ 司会：久万高原町立病院統括院長 山下善正  
「健やか元気な町づくり」  
愛媛大学医学部先端病態制御内科教授 恩地森一
4. 閉会挨拶 久万高原町副町長 永井修一



5. 2011年11月23日 第5回うりぼうネット

医学科・看護学科の学生が主体となり久万高原町立病院において第5回うりぼうネットが開催されました。久万高原町では第3回に続いて2回目の開催となりました。

今回のテーマは「ケアプランを作ろう～施設から在宅へ移行する介護サービスを学ぶ～」でした。午前中はケアマネージャーによる介護サービス、ケアプラン、介護保険等のレクチャーを行ったあと、検する利用者さんについてスタッフを交えて事前学習をしました。午後は実際に利用者および家族から話を聞いて、各グループでケアプランを作成し、発表を行いました。久万高原町立病院の4人のケアマネージャーさん達には最後までお付き合い頂きました。医学部の学生が大学でほとんど関わる事のない介護の実態について実際に経験できたことは大変意義があったものと思われまます。スタッフの皆さんには多大なる協力をして頂きました。

それ以外に、地域医療実習の1期生である現在研修医2年目の先生3名に今年度久万高原町立病院で初期研修（地域医療研修）を選択してもらうことができました。このこともスタッフの皆様をはじめとして、学生実習に御協力いただいた皆様による成果の一つではないかと思ひます。

当寄附講座の設置期限は平成25年3月までとなっておりますので、今年度の実習を一つの区切りとして頑張りたいと思っております。引き続き御指導のほどよろしくお願ひします。

## 地域医療学講座の関連活動

2011年1月8日（土）

第3回うりぼうネット：農村医学研究所

高齢化が進む地域における地域包括ケアについて、それに関わるスタッフの講演と老健施設でのユニットケアを実際に体験することで、施設介護の利点と問題点を学ばれました。楽しそうな利用者、入所者のQOLを考えた取り組み、できれば家庭で過ごしたいという思いの中、施設での介護を受けるとしたらどのようにすべきかを考えた試みが随所にみられたと思います。これからの医療では、病院にいて受診する患者さんだけを診るだけではなく、福祉にも思いを向けた取り組みが必要です。今回のうりぼうネットは学生の学びのきっかけとなりました。



2011年1月21日（金）

かとうクリニック院長の加藤正隆先生による講義「家庭によるタバコフリー活動」

かとうクリニック院長の加藤正隆先生より愛媛大学医学部の4年生を対象とした地域医療学の講義にて、「家庭によるタバコフリー活動」と題して熱のこもった授業を頂きました。ネクタイや胸章を禁煙印の入アクセサリで統一した身のこなしから発せられる強い言葉に学生全員が圧倒したと思われる。医学部で授業中に音楽が流れるのは加藤先生の講義だけだと思われま

2011年2月3日（木）

第3回愛媛大学医学部地域医療ワークショップ

世界と日本の地域医療の現状を話し合いました。世界と比較して医師数の少ないなか、すべての国民が希望する医療を享受できる環境、その結果、世界一の平均寿命と低い乳児死亡率という現状。一方で高齢化が進み、医療費もどんどん高くなるなか、延命と治す医療から寄り添う医療への転換の必要性について考えました。学生は国民皆保険やある程度のフリーアクセスは賛成という意見でした。

2011年4月9日（土）

東日本大震災の医療支援活動に参加して

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、それにより誘発され東北地方太平洋沿岸を中心に広い地域を襲った巨大な津波は、多くの方々の貴重な生命を奪いました。この未曾有の地震と津波の犠牲者の方々には、心からの哀悼の意を捧げます。避難所生活者は当初40万人を超え、被災の甚大さがうかがわれます。愛媛からも複数



の機関が支援体制を準備するなか、自分のスケジュールの中で参加可能な愛媛大学医学部医療支援チーム第2班（上野教授をチームリーダーとする9名）の一員として宮城県の石巻市の医療支援に参加しました。

2011年4月28日（木）

#### 第4回地域医療ワークショップ

地域枠学生による地域医療ワークショップを開催しました。今回は16名の仲間が入学しました。各人の出身、特技、クラブ活動、抱負、どのような医師を目指すかなどについて一人ひとり語ってもらいました。また先輩からは激励のメッセージをかけて頂きました。



2011年5月27日（金）

#### 砥部病院院長 中城 敏先生による講義「地域医療とは何か」

病院のキャッチフレーズは、「まさかの砥部病院」、「さすがの砥部病院」、「奇跡の砥部病院」

先生の学生時代の話から始まり、留学時代、研修時代、そして院長になってからの苦労と新たな取り組みについて、地域の住民の一員として住民目線で活動することこそが地域医療の遣り甲斐とお話しされました。

地域医療とは

- ・その準備は学生の時に始まっている
- ・すぐれた医師とは患者さんのためにどれだけのことが考えられ、どれだけのことをしてあげることができるか
- ・目指す医師像は「慈医」



2011年6月11日（土）

#### 第4回うりぼうネット

午前10時から、いきいき健康大学でのストレッチとノルディックウォーク。普段使い慣れていない筋肉の柔軟体操と慣れるまで意外と難しいノルディックウォークを体験しました。その後、松本陽子先生から、見た目年齢を若返らす方法についてお話を伺いました。午後からは、野村町の地域や病院における現状と取り組みについて、事務長、訪問看護センター東宇和、救命救急士から講演を受けました。少ない資源のなか、問題を抱えながらも連携とチームワークで取り組んでいることを感じたと思います。さらに老人保健施設つくし苑では入所者のお話を聞きまし



た。翌日は、ワークショップで議論を深め、午後はチーズづくりをして楽しみました。

2011年6月24日（金）

香川県綾川町国民健康保険陶病院院長 大原昌樹先生による講義「地域における高齢者医療・福祉」

先生のこれまでの活動から、症例を交え地域包括ケアについてご講演頂きました。素敵な病院づくり、在宅での終末期医療、その重要性、患者中心の医療、それを支える医療・保健・福祉のネットワーク、地域住民との交流など随所に地域医療の魅力が盛り込まれていました。

- ・在宅医療や地域医療に「医療の原点」がある
- ・田舎の地域医療も都会の地域医療もかわりがない
- ・診療所や小規模病院に若い時に行くことは医師の人生にとってマイナスではない
- ・住民を含めたネットワークを地域で築くことが重要である

2011年7月7日（木）

第5回地域医療ワークショップ

地域で活躍する医師のイメージ

ヒューマニズム

田舎の頼れるお医者さん

患者の優しい、親身

総合医・家庭医＋専門医

全身を診る、多科にわたる疾患も診られる

総合医、初期救急、プライマリ・ケア医

病気だけを診るのではなく、人生観や価値観

家庭ぐるみでの付き合い、往診・巡回診療

保健・福祉や他の医療機関との連携

リハビリ、介護、予防、患者教室

行政との協力

2011年8月1日（月）

愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター開所式

式次第（敬称略）

- (1) 記念式典
- (2) テープカットおよび施設見学
- (3) パネルディスカッション  
～愛媛の地域医療はどうあるべきか～  
司会：安川正貴、高田清式



- 講演：川本龍一 「地域を活性化する取り組み」  
畠山隆雄 「安心な地域医療をめざして」  
今川 弘 「地域医療におけるミッション」  
本田和男 「八幡浜・大洲圏域の現状と課題」  
松浦文三 「内子町の実態と問題点から」

2011年8月13日（土）

愛媛県医学生サマーセミナー

医学生サマーセミナー次第

司会：医療対策課 馬越補佐

- 1 県医療対策課長あいさつ
- 2 県の医師確保対策等への取り組みについて（県）
- 3 先輩医師からのメッセージ  
「地域医療の醍醐味」
- 4 ワークショップ  
テーマ：地域医療に従事する医師の不足の  
原因と解決策
- 6 討論発表及び意見交換 等
- 7 閉会



2011年10月21日（金）

タンポポクリニック理事長 永井康德先生による講義「在宅医療と連携」

在宅医療に関する取り組みについて、そのきっかけとなった西予市明浜町国保俵診療所での経験から始まり、チーム医療による600人の在宅患者のケア、そして在宅での緩和ケアについて事例を交えながらわかりやすく講演をいただきました。学生には刺激となったと思います。病気の原因や治療については詳しく習うものの、人の最期に関わる問題に対してはほとんど考えることの少ないカリキュラムです。高齢化が進む今日、最期をどう過ごすか、医師としてどうかかわり合うかは重要なテーマです。一方で地域医療の現場ではよく遭遇する問題であるので今後も取り上げていきたいと思っています。

2011年10月27日（木）

第6回地域医療ワークショップ

安川正貴医学部長より説明：「地域卒卒業医師の将来について」

地域卒学生の卒後の研修について、さらにはその後の派遣先について話していただきました。今回、大学と愛媛県との協議によりプログラムが用意され、内容は義務というよりは権利ともなりうるものである。1) 必ず、研修中も一人になることなく大学がきちんと面倒をみること、2)

あらゆる可能性を考慮して専門医を目指せること、3) 大学院生(社会人大学)にもなれえること、4) 地域の医療機関で活躍するにはきちんとした総合的に診療できる能力は身に付けられること、5) 女性医師も活躍できること、6) 派遣先については本人、大学、県との話し合いで決定することなどのプログラムの仕組みについてであった。義務内だけでなく義務後も活躍できることが重要である。

2011年11月16日(水)

久万高原町地域医療講演会「健やか元気なまちづくり」

久万高原町で開催された地域医療講演会「健やか元気なまちづくり」にて恩地森一先生と共に町関係者および町民300名を対象に「地域医療における地域を活性化する取り組み」と題して野村町での活動を報告しました。

1) 地域社会の高齢化、2) 加速度的高齢化によるヘルスケア・ニーズの増大、3) 住民医療費の高騰、4) 高齢化による医療費の高騰とさらなる財政悪化、5) 地域医療・保健を担う人材の減少、6) 困難を極める医師確保、7) 地域保健で中心的役割を果たす保健師の減少、8) 財政悪



化による人材雇用の限界の中、高齢化が進む地域社会で地域保健の核となる医師や元気な高齢者を地域資源を活用して育てることが地域医療の確保と負担の軽減や地域の活性化につながるということを話しました。

2011年12月1日(木)

第7回地域医療ワークショップ

1年生対象に地域視診を行ないました。

- ・地域医療は、地域を愛することから始まる
- ・「あなたを助けるためにあなたの地域を知りたい」という気持ちを持つことが一番大事
- ・地域をよく知ることから地域医療は始まる。
- ・地域で医療をただ行うのではなく、地域に住み、地域住民として医療を行う視点が大事
- ・ボランティア組織などに参加することも必要

2011年12月15日(木)

第8回地域医療ワークショップ

診療科の偏在を考える

外科、内科、小児科など幅広い領域が診られる能力を学んでおくことが必要との意見でした。

## 第 11 回愛媛プライマリ・ケア研究会

【日 時】平成 23 年 7 月 9 日（土） 16 時 00 分～

【場 所】リジェール松山 8F 「クリスタルホール」

### 【一般演題】

1. 「SCCS における生活習慣病と S A S の関連性」  
中川循環器内科・OSAS センター 中川真吾
2. 「糖尿病患者における牛乳・乳製品摂取と BMI に関する多施設横断調査」  
愛媛大学医学部附属病院臨床研修センター 羽立 登志美
3. 「地域住民を対象とした ICT 活用による動機付けとノルデックウォークの効果に関する検討」  
西予市立野村病院内科, 愛媛大学大学院加齢制御内科学 加藤 丈陽
4. 「退院前訪問に医師が参加する意義～家庭医療の視点から～」  
新居浜協立病院内科・家庭医療科 御前 秀和
5. 「チームで取り組む禁煙治療」  
かとうクリニック（新居浜） 加藤 正隆
- 追加 5. 「医療機関と患者様の仲を取り持つ禁煙サポート」  
たばこフリー愛媛 むらやま薬局 村山 勝志
6. 「当院の塵肺定期通院患者のまとめ」  
愛媛生協病院 城内 謙治
7. 「当院総合診療科への紹介患者さんの検討」  
愛媛県立中央病院総合診療科 清水 元気
8. 「大学病院の内科系認知症専門外来の現状」  
愛媛大学大学院加齢制御内科学 多喜田 理絵

### 【特別講演】

「医療におけるプロフェッショナルリズム」

北海道大学病院 特任准教授

地域医療指導医支援センター/卒後臨床研修センター 副センター長 宮田 靖志 先生



## 第 23 回日本老年医学会四国地方会を開催して

愛媛大学大学院地域医療学 教授  
川 本 龍 一

2012 年 2 月 18 日、愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センターにおいて第 23 回日本老年医学会四国地方会が行われました。愛媛県での開催は 4 年ぶりです。

一般演題では循環器、高齢者に関する教育・連携、神経、感染症、消化器、内分泌・代謝、高齢者・介護と各分野にわたる 31 題もの多くの演題をいただき、フロアからは活発な議論が行われました。午後のランチョン・セミナーでは東京大学大学院医学系研究科加齢医学の秋下雅弘先生から「認知症と生活習慣病」と題して講演をいただき、その後、特別講演として武蔵国分寺公園クリニック院長の名郷直樹先生より「高齢者について意外なエビデンス」と題して名郷節による目から鱗が落ちるにふさわしい講演をいただきました。高齢者の治療においては、個々の患者さんの背景を十分に踏まえ、エビデンスの適応を考えていく必要があるとの内容でした。教育講演 1 ではランチョン・セミナーに引き続き秋下雅弘先生より日本老年医学会発行の「健康長寿診療ハンドブック」についての解説、教育講演 2 では本学先端医療創生センターの田原康玄先生より「老化・生活習慣病に関する遺伝子解析」と題して、先生の研究成果である高血圧の原因遺伝子などについてわかりやすく講演をいただきました。日本老年医学会員をはじめ多くの研修医の先生方の参加もいただき盛会のうちに終了することができました。

会の開催に際しては、学会誌への報告や演題募集の掲載依頼、代議員会の開催の準備・案内やプログラム・抄録集の作成などの準備作業があり、本学の先端病態制御内科や加齢制御内科の皆様からたくさんご協力いただきましたことをこの場をおかりしてお礼申し上げます。

### プログラム

#### 特別講演

武蔵国分寺公園クリニック 院長

名郷 直樹 先生

#### 教育講演

愛媛大学医学部附属病院先端医療創生センター 副センター長

田原 康玄 先生

東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 准教授

秋下 雅弘 先生

#### 一般演題

31 題

#### ランチョンセミナー

東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 准教授

秋下 雅弘 先生



# 地 域 医 療 学

## —「地域を舞台に学ぶ」—

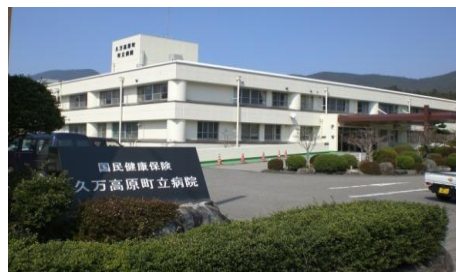
### ①講座の紹介

地域医療学講座は、平成 21 年 1 月 1 日、地域での教育・研究・診療を目的として愛媛県からの寄附講座として設立され、現在、西予市立野村病院および久万高原町立病院に講座の地域サテライトセンターを設け活動しています。地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しており、このような現状のなか地域における住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。本講座では、「地域に生き」、「地域で働く」医師を「地域を舞台に育てる」を合言葉に、地域に根付いた教育と研究、医療支援活動を行い、総合医育成を目指しています。

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター



西予市立野村病院



久万高原町立病院



### ②地域サテライトセンターの特徴と研修プログラム

1. 主な研修場所は、地域における救急を含む一次、二次医療を担当する一般病院であり、紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診、入院を受け入れており、救急を含む **common disease** や **common problem** を十分に経験する機会を保障しています。
2. 臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修です。
3. 指導医も臓器別専門医として指導をするのではなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。患者の諸問題から出発して学習をすすめる問題指向型学習 **Problem-based Learning** を行いやすい環境を保障しています。
4. 研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。
5. いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり、地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。
6. 医師カンファレンスだけでなく各種コメディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行なっており、各種スタッフと協力して医療を行うチーム医療の姿勢を身につけるのに適した環境を保障しています。
7. 学習環境の保証、教育法の工夫として、研修医が文献や各種二次資料の検索を行なえるコンピューターを配備し、問題解決のための自己学習や **EBM** を実践できる環境を保障しています。
8. より効果的な教育方法の開発に取り組み、マニュアル化し、研修に取り入れています。
9. 研修内容は研修医の到達度に応じてステップアップしていくシステムをとっており、患者にとって安全で、かつ研修医も安心して研修が受けられる環境を保障しています。
10. 精神的、身体的に健康で、経済的にも余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇、給

料を保障しています。

11. 指導医の各種研修への参加保障など指導医養成 Faculty Development を重視しています。
12. 指導医が研修指導にあたる時間を確保するとともに、屋根瓦方式による指導体制をとることで、研修医が十分な指導を受けられる環境を保障しています。

#### 研修の具体例

年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
研修内容	初期臨床研修 (2年)		内科中心の研修 (1~2年)		地域医療 (1~2年)		自由研修 (1~4年)		
研修施設	臨床研修病院		大・中規模病院		地域中核病院・ 診療所		希望医療機関		
資格			日本内科学会 認定内科医取得				日本内科学会総合内科専門医、 日本プライマリ・ケア連合学会 認定・家庭医療専門医等 総合関連専門医および 各種専門医取得		

※当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け「地域医療・総合医後期研修コース」、  
「家庭医養成愛プログラム」と臨床経験5年以降の医師向け「地域医療生涯研修コース」を用意  
しています。「地域医療」での研修を希望して、診療所に1年単位で勤務することが難しい場合  
には、指導医がいる診療所において、週1~2回程度代診する形で地域の診療所を経験すること  
も可能です。

※研修内容は、愛媛大学医学部総合臨床研修センターの支援のもと、本コース参加者と研修医療機  
関との話し合いで決定します。また、定期的に本コース参加医療機関指導医と研修参加者の研修  
会を開催し、研修の振り返りと研修内容の充実を計ります。

#### ③経験目標

当プログラムを修了した医師は、地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼  
される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、医療・保健・福祉までを含めた幅広い分  
野の人々と協働できることを目標としています。

#### ④指導医

- ・川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日  
本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導  
医、日本消化器内視鏡学会専門医、米国内科学会上級会員（Fellow））
- ・阿部雅則（准教授：日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本老年医学会専門医・指導医、日  
本消化器病学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・  
指導医、日本アレルギー学会専門医、日本超音波医学会専門医・指導医）

#### ⑤研修に関する行事（西予市地域サテライトセンターの例）

月曜日：抄録会、火曜日：病棟カンファレンス・褥瘡回診、水曜日：レ線カンファレンス・健康  
教室、木曜日：訪問カンファレンス、金曜日：病棟カンファレンス・総回診

#### ⑥研修終了後について

個人の希望に応じて愛媛大学の関連病院で勤務あるいは大学院進学



⑦関連病院との連携

臨床コース：希望により、県内の教育病院で研修を積み、日本プライマリ・ケア連合学会、日本内科学会、日本老年医学会等の認定医取得後、さらに専門医取得を計ります。

⑧専門研修の問い合わせ先

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53（西予市立野村病院）

## 学 生 講 義

### 【先端基礎医学講義】（第3学年対象）＊すべて愛媛大学医学部にて実施

月 日	曜日	時限	講 義 内 容	担当講座等
5月10日	火	1	地域医療の実践 地域医療と連携・チーム医療	地域医療学（川本）
6月21日	火	1	地域医療の実践 地域医療における患者さんの視点	地域医療学（阿部）
10月21日	金	1	地域医療の実践 健康教室と行動変容	地域医療学（川本）
11月4日	金	1	地域医療への提言 学生のディベート	地域医療学（川本・阿部）
12月2日	金	1	地域医療の実践 女性医師活動	学外講師
1月20日	金	1	地域医療の現場 家庭医としての役割	地域医療学（川本）
2月3日	金	1	地域医療への提言 学生のディベート+ワークショップ	地域医療学（川本・阿部）

### 【先端基礎医学講義】（第4学年対象）＊すべて愛媛大学医学部にて実施

月 日	曜日	時限	講 義 内 容	担当講座等
4月15日	金	1	地域医療の実践 地域医療における総合医と専門医の役割	地域医療学（阿部）
5月27日	金	1	地域医療の実践 病院運営と高齢者のケア	学外講師
6月24日	金	1	地域医療の実践 地域医療における高齢者医療・福祉	学外講師
7月22日	金	1	地域医療の実践 地域医療における禁煙活動	学外講師
10月21日	金	2	地域医療の実践 地域医療における在宅医療と連携	学外講師
11月4日	金	2	地域医療の実践 地域医療におけるEBMとNBM	地域医療学（川本）
12月2日	金	2	地域医療の現場 そのイメージ：ワークショップ	地域医療学（川本）
12月16日	金	2	地域医療の現場 地域医療に向けての学生の主張	地域医療学（川本・阿部）

### 【その他の講義】 ＊すべて愛媛大学医学部にて実施

月 日	曜日	時限	講 義 内 容	担当講座等
4月20日	水	2	フロンティア医学講義（第1学年）	地域医療学（川本）
4月21日	木	2	第5学年対象 Pre-BSL : 地域医療実習について	地域医療学（川本）
平成24年 1月26日	木	2	医療情報学講義	地域医療学（川本）

### 【愛媛大学医学部以外での講義】

- ・愛媛大学法文学科人文学科講義 地域医療の現状（平成23年11月21日）
- ・広島大学地域医療学講義 地域医療とは（3年生全員対象）（平成24年2月1日）

【地域医療ワークショップ】(地域枠学生1年生16名、2年生14名、3年生10名他希望学生も可)

月 日	曜日	講 義 内 容	
2月3日	木	第3回：日本の医療の特徴	地域医療学
7月7日	木	第4回：地域をケアする(地域枠全員対象)	地域医療学
10月27日	木	第5回：地域枠卒業医師の将来について(地域枠全員対象) (安川医学部長より説明と訓示)	地域医療学
12月1日	木	第6回：地区視診(1年生地域枠対象)	地域医療学
12月15日	木	第7回：地域の医師偏在を考える(2年生地域枠対象)	地域医療学
平成24年 1月26日	木	第8回：プロフェッショナリズムについて(3年生地域枠対象)	地域医療学

【その他】

- ・愛媛大学先端医学ウインタースクール(3月5-6日、今治市)
- ・第3回うりぼうネット(1月8日：参加医学生等18名、久万高原町)
- ・第4回うりぼうネット(6月11日、12日：参加医学生等8名、西予市)
- ・第5回うりぼうネット(11月23日：参加医学生等9名、久万高原町)
- ・うりぼうネット実行委員学生によるいきいき健康大学健康教室(11月12日：西予市)

## 地域医療学実習

平成 23 年度愛媛大学医学部医学科第 5 学年 班別名簿 <span style="float: right;">○ 女性</span>					
班	久万高原町立病院		西予市立野村病院		
1 班	相原 法昌	河村 智宏	○須藤 萌	○鈴木 康子	年森 慎一
2 班	○稲垣 茉世	○細川 沙生	沖川 昌平	北村 優	瀧口 洋司
3 班	阿部 康範	○喜多 結	黒河 健	國分 勝仁	○山口 由莉
4 班	○田形 愛美	林 祐志	○蔵地 万里奈	河本 敦	西 悠介
5 班	○小林 みどり	○田中 沙苗	大西 智也	塩見 亮人	南 和伸
6 班	○大酢 由規	○笠井 智美	河野 大介	中村 和	山科 貴裕
7 班	○川本 亜弥	○増永 泰枝	伊勢 昇平	上田 怜	藤石 龍人
8 班	杉 修造	藤澤 友輝	○小野 葉子	黒木 聡三	○櫻井 晴子
9 班	青木 孝之	山本 雄太	○大久保 史恵	宮崎 慈大	○村田 調和
10 班	○谷本 佳弘菜	○栗原 佳子	笠松 亮宏	鈴木 良輔	富口 純
11 班	高橋 潤	○吉田 安友子	北住 善樹	○近藤 晴香	山内 優輔
12 班	河邊 有哉	鈴木 正人	猫本 明紀	○高橋 紗央里	○山崎 杏理
13 班	新恵 幹也	徳増 明文	齋木 良介	吉田 和樹	\
14 班	大町 北斗	山添 大輝	越智 良文	八束 和樹	
15 班	甲斐 成彦	○美濃部 麻由	○今村 恭子	尾地 伸悟	澤口 翔太
16 班	高門 政嘉	西 康太郎	○伊藤 沙耶	津田 貴史	○中島 有理
17 班	○小松 紗綾	中田 貴大	石沢 遼太	岡本 千聡	○横山 真紀
18 班	○荒川 直子	○友利 亜弓	中田 行洋	山家 佑介	山本 和一
19 班	○神谷 歩実	山下 洋一	平井 邦明	○松瀬 房子	山本 真也
20 班	田中 克弥	○丸本 恵里香	河野 広貴	○肥後 友佳	○森 万純

## 1) 実習・研修場所と研修プログラムの内容

愛媛大学医学部地域医療学講座のサテライトセンターは、松山市から車で 60 分余り要する愛媛県西南地区山間地域の西予市野村町と久万高原町に位置し、いずれも農林業を主産業とする高齢化率 37%と 43%、対象人口約 13,000 人と 10,000 人の町である。周辺には実地医家を含めて医療機関が少なく、したがって、病院があらゆる地域医療に関わる業務を担当しており、実習場所として病院、訪問看護サービス事業所、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、デイケアセンター、デイサービスセンター、保健福祉センター、国保診療所（出張）、障害者施設などがあげられる。学生は地域医療に関する多くの資源を週間スケジュールの中で履修することが可能であり、短期間に効率よく学べる。彼らはそれぞれのレベルに応じて多職種の指導を受けながらチームのメンバーとして日常業務を担当し、地域医療に貢献しながら学ぶことになる。こうした取り組みは、学生にとっては地域医療の動機付けとなり、教える側にとっては現場で医師を育てる上で重要な方法である。

## 2) 実習の効果

教育においてはアウトカムを評価することは重要であり、学生教育においても様々な場面での振り返りを行い、プロセスからプラスにつなげていくことが重要である。振り返りシート（ポートフォリオ）として、その日の実習を通して「今日新しく気づいたこと・できごと」、「今日うまくいかなかったこと・失敗」、「今の気持ち・感情」、「今後学びたい内容・願望」を毎日 1 枚の用紙に詳細に記載するよう指導している。5 日間の実習の日々の振り返りシートは、1 学生につき計 5 枚であり、5 学年の臨床実習では総計 435 枚が回収された。学生が学んだ事項を抽出し、抽出された項目は同じ内容と思われる項目を統合してひとつのカテゴリーにまとめた。975 の学びが抽出され、これらの学びは 37 のカテゴリーに分類された（図 1）。これにより地域医療実習における医学生や研修医の学びが読み取られる。すなわち、手技(27%)、他職種への理解(13%)、学習への気づき(12%)が上位を占め、以下、患者の立場(7%)、地域(5%)、学習環境(5%)、医師のあるべき姿(4%)、コミュニケーション(3%)、知識(3%)という順位であった。例えば、「診療所ではちょっとしたことでも、医師に診てもらおうと患者さんは安心する」といった体験の描出(レベル 1)にとどまるも、「体位交換やオムツ交換はかなり肉体労働である」といった体験の感想(レベル 2)、「老老介護が多く、往診などで出向くことが少しでも負担の軽減につながるかもしれない」といった体験の一般化(レベル 3)への深まり、さらには「病気を治すことだけでなく、退院後のことも考えて介護保険や身障者の保険について知っておくことも大切」といった今後の具体的な行動を提示する(レベル 4)レベルへの深まりの気づきを読み取れた。しかし、多くの学生はレベル 2 までの深さであり、大学では経験できなかった手技や疾患について学ぶことに集中していた。平成 23 年度 5 年生全員に対して、実習の効果として検討した地域医療に関する幾つかの質問の実習前後における変化を示す。多くの項目で地域医療に対するマイナスイメージがポジティブイメージに変化していた。

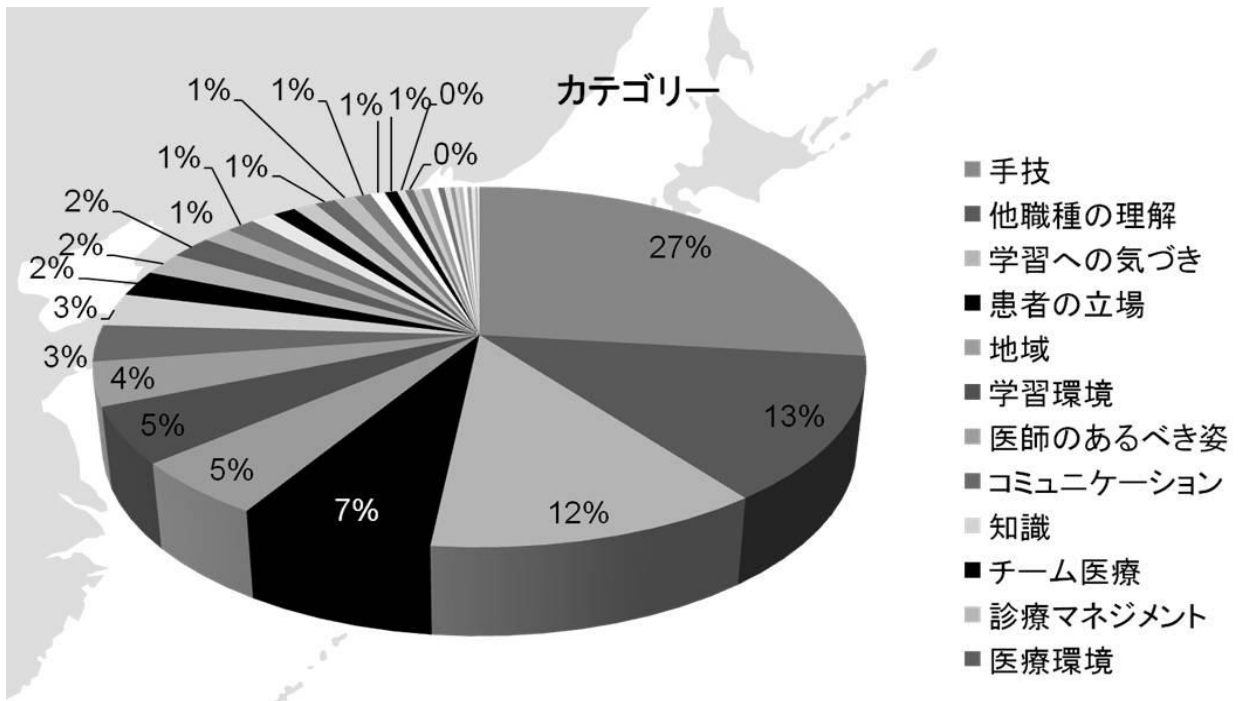


図1 地域医療実習における学びのカテゴリー

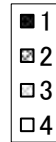
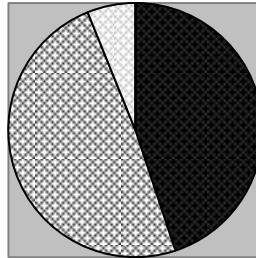
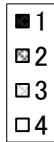
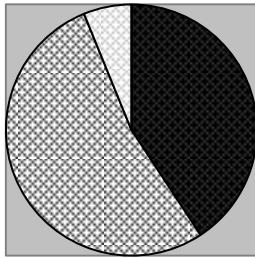
## 地域医療実習前後のアンケート結果

1 非常にそう思う    2 まあまあそう思う    3 余りそう思わない    4 全くそう思わない

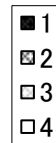
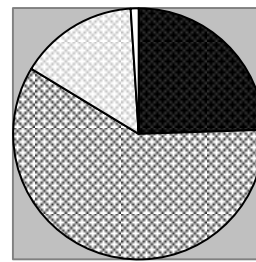
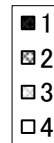
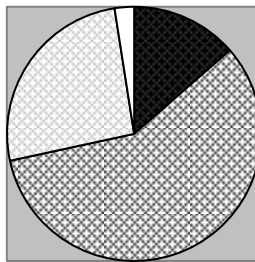
前

後

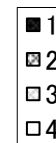
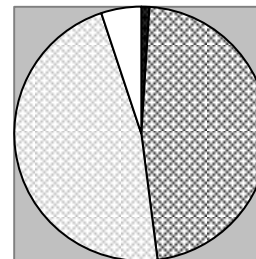
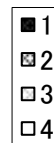
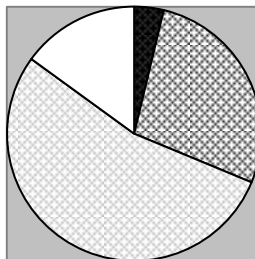
3) 地域医療は大変そうである。  $P=0.862$



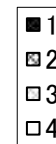
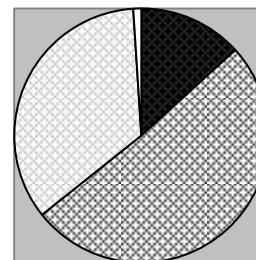
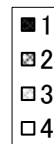
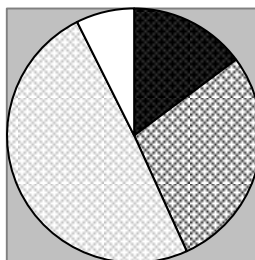
4) 地域医療には夢がある。  $P=0.002$



3) 地域医療を担う自信がある。  $P=0.005$



4) 将来、愛媛の地域医療に関わりたい。  $P<0.001$

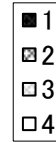
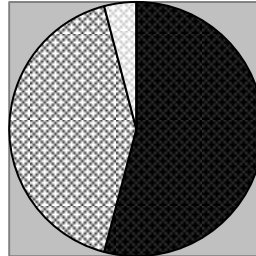
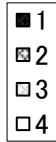
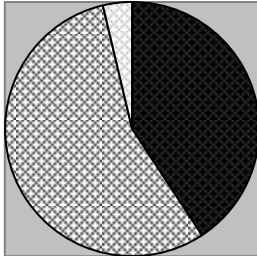


1 非常にそう思う    2 まあまあそう思う    3 余りそう思わない    4 全くそう思わない

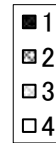
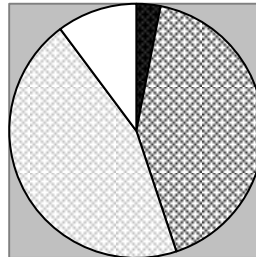
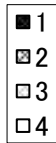
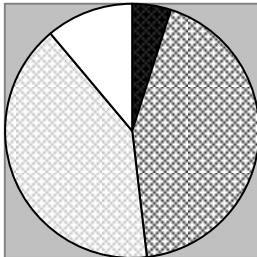
前

後

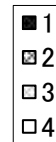
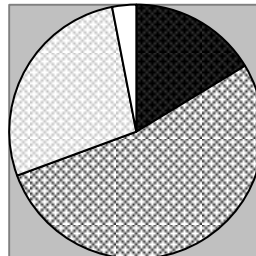
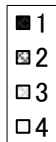
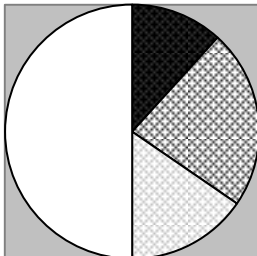
5) 地域医療にはやりがいがありそうだ。  $P=0.115$



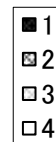
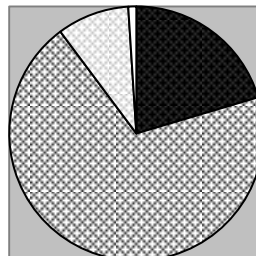
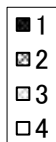
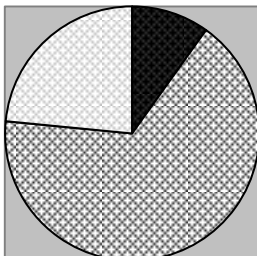
6) 地域医療に従事すると医療の進歩に遅れる気がする。  $P=0.953$



7) 将来、幅広い領域を扱う総合医になりたい。  $P=0.170$



8) 将来、特別な科の専門医になりたい。  $P=0.001$



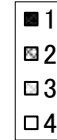
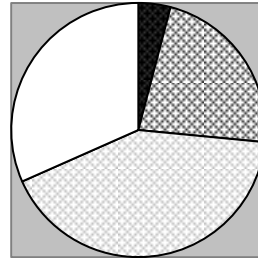
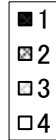
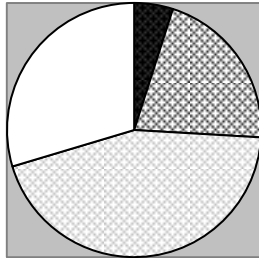


1 非常にそう思う    2 まあまあそう思う    3 余りそう思わない    4 全くそう思わない

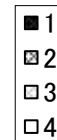
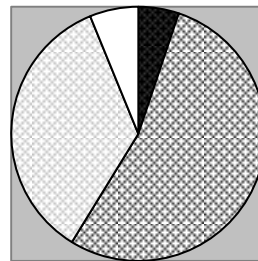
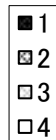
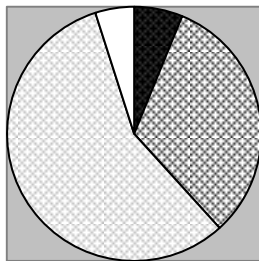
前

後

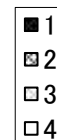
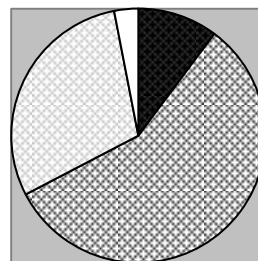
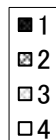
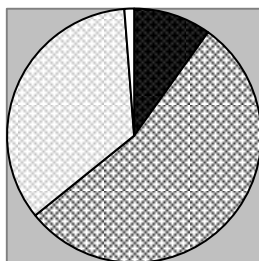
9) 将来，研究者（基礎医学を含む）になりたい。  $P=0.757$



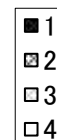
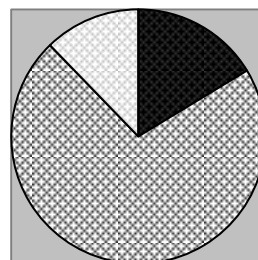
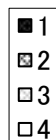
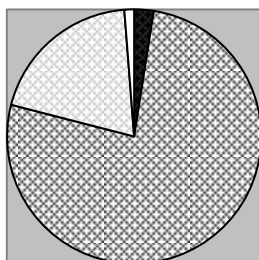
10) 将来は，ライフワークとして診療所で働きたい。  $P=0.071$



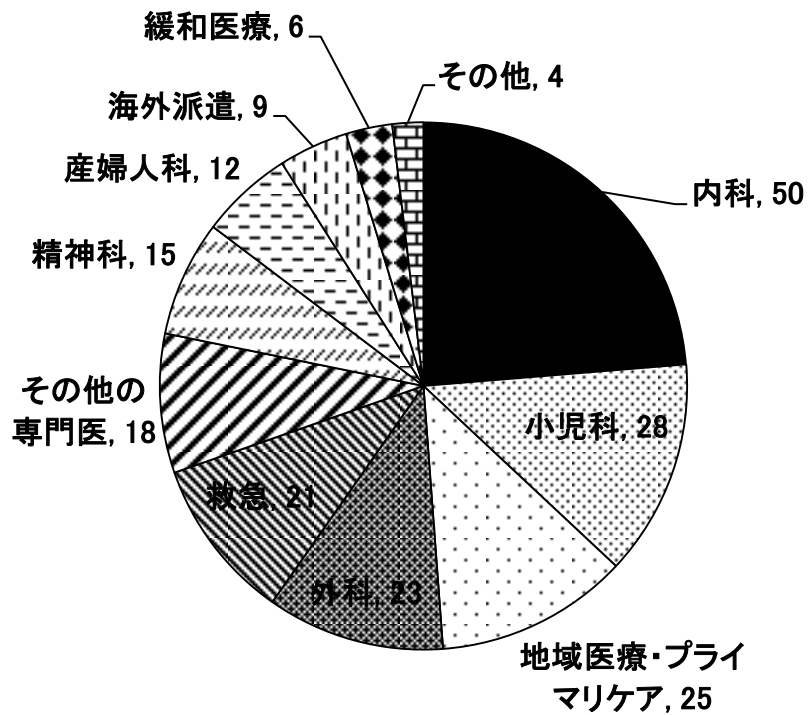
11) 将来は，ライフワークとして大きな総合病院で働きたい。  $P=0.375$



12) 将来は，ライフワークとして地域の中核病院で働きたい。  $P=0.001$



13) どのような科の医師になりたいか（複数回答可）



その他の専門医には、麻酔科・神経内科各 2 名、皮膚科、整形外科、診療内科、糖尿病、呼吸器内科、総合診療科、医系技官各 1 名を含む

## 研究業績 (2011 年)

### 【原 著】

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Miki T, Kusunoki T, Abe M :  $\gamma$ -glutamyl transferase and high-molecular-weight adiponectin levels are synergistically associated with metabolic syndrome and insulin resistance in community-dwelling persons. *Metab Syndr Relat Disord* 2011 Nov 7. [Epub ahead of print].

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Miki T, Kusunoki T, Katoh T, Ohtsuka N, Takayama S, Abe M: A slightly low hemoglobin level is beneficially associated with arterial stiffness in Japanese Community-Dwelling Women. *Clin Exp Hypertens* 2011 Oct 3. [Epub ahead of print]

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Miki T, Kusunoki T, Takayama S, Abe M, Katoh T, Ohtsuka N: Association between fasting plasma glucose and high-sensitivity C-reactive protein: gender differences in a Japanese community-dwelling population. *Cardiovasc Diabetol* 2011; 10: 51.

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Miki T, Kusunoki T, Takayama S, Abe M, Katoh T, Ohtsuka N: Relationships between lipid profiles and metabolic syndrome, insulin resistance and serum high molecular adiponectin in Japanese community-dwelling adults. *Lipids Health Dis* 2011; 10: 79.

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Miki T, Ohtsuka N, Kusunoki T, Takayama S, Abe M: Serum gamma-glutamyl transferase within its normal concentration range is related to the presence of impaired fasting glucose and diabetes among Japanese community-dwelling persons. *Endocr Res* 2011; 36: 64-73.

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Miki T, Kusunoki T, Katho T, Ohtsuka N: Serum high molecular weight adiponectin correlates with arterial stiffness in community-dwelling persons. *Endocr Res* 2011; 36: 53-63.

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Abe M, Kusunoki T, Miki T: Association of serum high molecular weight adiponectin and blood pressure among non-diabetic community-dwelling men. *Clin Exp Hypertens* 2011; 33: 336-344.

Kawamoto R, Tabara Y, Kohara K, Miki T, Kusunoki T, Takayama S, Abe M: Hemoglobin is associated with serum high molecular weight adiponectin in Japanese community-dwelling persons. *J Atheroscler Thromb* 2011; 18: 182-189.

Tabara Y, Osawa H, Kawamoto R, Onuma H, Shimizu I, Makino H, Kohara K, Miki T: Genotype risk score of common susceptible variants for prediction of type 2 diabetes mellitus in Japanese: the Shimanami Health Promoting Program (J-SHIP study). Development of type 2 diabetes mellitus and genotype risk score. *Metabolism* 2011; 60: 1634-1640.

Abe M, Mashiba T, Zeniya M, Yamamoto K, Onji M, Tsubouchi H: the Autoimmune Hepatitis Study Group, a subgroup of the Intractable Hepato-Biliary Disease Study Group in Japan. Present status of autoimmune hepatitis in Japan: a nationwide survey. *J Gastroenterol* 2011. 46: 1136-1141.

Hamada M, Abe M, Miyake T, Kawasaki K, Tada F, Furukawa S, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M: B cell-activating factor controls the production of adipokines and induces insulin resistance. *Obesity* 2011; 19: 1915-1922.

Azemoto N, Kumagi T, Abe M, Konishi I, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M: Biochemical response to ursodeoxycholic acid predicts long-term outcome in Japanese patients with primary biliary cirrhosis. *Hepatology* 2011; 41: 310-137.

Chen S, Akbar SMF, Abe M, Hiasa Y, Onji M: Immune suppressive functions of hepatic myeloid-derived suppressor cells of normal mice and in a murine model of chronic hepatitis B virus. *Clin Exp Immunol.*2011; 166:134-142.

Koizumi Y, Hirooka M, Kisaka Y, Konishi I, Abe M, Murakami H, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M: Noninvasive diagnosis of liver fibrosis in patients with chronic hepatitis C by real-time tissue elastography: Establishment of the method for measurement. *Radiology* 2011; 258: 610-617.

Ueda T, Matsuura B, Miyake T, Furukawa S, Abe M, Hiasa Y, Onji M: Mutational analysis of predicted extracellular domains of human growth hormone secretagogue receptor 1a. *Regul Pept* 2011; 166: 28-35.

Akbar SMF, Horiike N, Chen S, Michitaka K, Abe M, Hiasa Y, Matsuura B, Onji M: Mechanisms of restoration of immune responses of chronic hepatitis B patients during lamivudine therapy: increased antigen processing and presentation by dendritic cells. *J Viral Hepat* 2011; 18: 200-205.

Akbar SMF, Furukawa S, Horiike N, Abe M, Hiasa Y, Onji M: Safety and immunogenicity of hepatitis B surface antigen-pulsed dendritic cells in patients with chronic hepatitis B. *J Viral Hepat* 2011; 18: 408-414.

Koizumi Y, Hirooka M, Uehara T, Kisaka Y, Uesugi K, Kumagi T, Abe M, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M: Transcatheter arterial chemoembolization with fine-powder cisplatin-lipiodol for HCC. *Hepatogastroenterology* 2011; 58: 512-515.

Yamanishi H, Yokota T, Kumagi T, Azemoto N, Abe M, Murakami H, Hiasa Y, Matsuura B, Kawamoto H, Yamamoto K, Onji M: Clinical significance of B cell-activating factor (BAFF) in autoimmune pancreatitis. *Pancreas* 2011; 40: 840-845.

Hirooka M, Koizumi Y, Hiasa Y, Abe M, Ikeda Y, Matsuura B, Onji M: Hepatic elasticity in patients with ascites: evaluation with real-time tissue elastography. *Am J Roentgenol* 2011; 196: W766-771.

Watanabe T, Konishi I, Shigematsu S, Uesugi K, Joko K, Seike H, Okada S, Miyaoka H, Nakanishi S, Abe M, Matsuura B, Michitaka K, Horiike N, Hiasa Y, Onji M: Sustained virological response of patients with hepatitis C virus genotype 2 depends on pegylated interferon compliance. *Hepatology* 2011; 41: 722-730.

Imaoka H, Higaki N, Kumagi T, Miyaike J, Ohmoto M, Yamauchi K, Murakami T, Murakami H, Ikeda Y, Yokota T, Shibata N, Ninomiya T, Abe M, Hiasa Y, Matsuura B, Onji M, Umeda M, Horiike N: Characteristics of small-bowel tumors detected by double balloon endoscopy. *Dig Dis Sci* 2011; 56: 2366-2371.

Konishi I, Hiasa Y, Tokumoto Y, Abe M, Furukawa S, Toshimitsu K, Matsuura B, Onji M: Aerobic exercise improves insulin resistance and decrease body fat and serum levels of leptin in patients with hepatitis C virus. *Hepatology* 2011; 41: 928-935.

Hirooka M, Ochi H, Koizumi Y, Kisaka Y, Abe M, Ikeda Y, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M: Splenic elasticity identified by real-time tissue elastography is a novel marker of portal hypertension. *Radiology* 2011; 261: 960-968.

Hiraoka A, Tazuya N, Uehara T, Ichiryu M, Tanabe A, Tanihira T, Hasebe A, Ninomiya T, Ochi H, Koizumi Y, Hirooka M, Abe M, Hiasa Y, Matsuura B, Onji M, Michitaka K: Hepatic resection assisted by ablative therapy for advanced hepatocellular carcinoma. *Hepatogastroenterology* 2011; 58: 955-959.

Tanaka A, Harada K, Ebimuma H, Komori A, Yokokawa A, Yoshizawa K, Abe M, Miyake Y, Kikuchi K, Ohira H, Zeniya M, Ishibashi H, Onji M, Nanamuma Y, Takikawa H: Primary biliary cirrhosis and autoimmune hepatitis overlap syndrome: a rationale for corticosteroids use based on a nation-wide retrospective study in Japan. *Hepatology* 2011; 41: 877-886.

阿部雅則、SMF Akbar、恩地森一：B型肝炎治療の最新戦略 HBs抗原+HBc抗原パルス樹状細胞を用いた治療ワクチンの開発 *消化器科* 2011; 52: 120-124.

阿部雅則、陳式儀、ファズレ アクバル、日浅陽一、恩地森一：肝臓に局在する Myeloid-derived suppressor cells (MDSC)の機能解析 *消化器と免疫* 48: 155-158, 2011.

山西浩文、村上英広、池田宜央、阿部雅則、日浅陽一、恩地森一：盲腸細菌抗原を用いた制御性樹状細胞による炎症性腸疾患発症抑制 *消化器と免疫* 48: 53-56, 2011.

### 【症例報告】

加藤 丈陽、川本 龍一、楠木 智：Howship-Romberg 徴候を坐骨神経痛として見過されていた閉鎖孔ヘルニアの1例. *日本老年医学会雑誌* 2011; 48 : 176-179.

Tada F, Abe M, Nunoi H, Azemoto N, Mashiba T, Furukawa S, Kumagi T, Murakami H, Ikeda Y, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M. Ulcerative colitis complicated with primary biliary cirrhosis. *Intern Med* 2011; 50: 2323-2327.

Koizumi Y, Hiraoka A, Michitaka K, Tazuya N, Ichiryu M, Nakahara H, Ochi H, Tanabe A, Hidaka S, Kodama A, Uehara T, Hasebe A, Miyamoto Y, Ninomiya T, Abe M, Hiasa Y, Matsuura B, Horiike N, Onji M: Severe hypoglycemia associated with insulin-like growth factor II-producing liver metastasis from gastric carcinoma treated with overnight total parenteral nutrition via a reserve port for a central vein catheter. *Clin J Gastroenterol* 2011; 4: 68-72.

Ikegawa S, Hiraoka A, Shimizu Y, Hidaka S, Tazuya N, Ichiryu M, Nakahara H, Tanabe A, Tanihira T, Hasebe A, Miyamoto Y, Ninomiya T, Hirooka M, Kumagi T, Abe M, Hiasa Y, Matsuura B, Onji M, Michitaka K: Hepatocellular carcinoma in case of Wilson's disease treated with radiofrequency ablation therapy. *Intern Med* 2011; 50: 1433-1437.

Yamanishi H, Kumagi T, Yokota T, Koizumi M, Azemoto N, Watanabe J, Mizuno Y, Sugita A, Abe M, Ikeda Y, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M: Epithelial cyst arising in an intrapancreatic accessory spleen: diagnostic dilemma. *Intern Med* 2011; 50: 1947-1952.

Ochi H, Hiraoka A, Uehara T, Hidaka S, Kawasaki H, Furuya K, Hirooka M, Abe M, Matsuura B, Hiasa Y, Onji M, Michitaka K: Abdominal imaging findings of a patient with hepatocellular carcinoma associated with glycogen storage disease type 1a. *Intern Med* 2011; 50: 2317-2322.

Watanabe T, Hiasa Y, Torisu M, Shimizu T, Yamamoto Y, Kawasaki K, Higaki N, Murakami H, Kumagi T, Abe M, Furukawa S, Matsuura B, Ikeda Y, Tanaka H, Mochizuki T, Onji M: Endovascular treatment is effective against acute mesenteric ischemia complicated with metabolic diseases. *Clin J Gastroenterol* 2011; 4: 223-229.

渡辺崇夫, 日浅陽一, 廣岡昌史, 木阪吉保, 古川慎哉, 阿部雅則, 村上英広, 池田宜央, 松浦文三, 恩地森一: ソラフェニブにより消化管出血を発症した肝細胞癌の2例. *Gastroenterol Endosc* 2011; 53: 1626-1633.

木阪吉保, 廣岡昌史, 小泉洋平, 越智裕紀, 阿部雅則, 熊木天児, 池田宜央, 松浦文三, 日浅陽一, 恩地森一: 造影超音波検査およびMRI検査が診断に有用であった肝血管筋脂肪腫の1例. *愛媛医学* 2011; 30: 175-178.

### 【総説・著書】

川本龍一: リライアブル・タウン (安心して楽しく老いる街づくり) 基盤構築事業. 株式会社愛媛ジャーナル社 2011; 24: 80-83.

川本龍一: 地域医療についてー日本と愛媛の現状ー. 西南四国のむら 2011; 8: 3-4.

川本龍一, 阿部雅則, 楠木 智: 地域医療における学生教育と健康増進活動. *愛媛医学* 2011; 30: 201-206.

阿部雅則, 恩地森一: 自己免疫性肝炎 消化器診療ガイドライン第2版 高橋信一編, 総合医学社, p174-177, 2011.

阿部雅則, 多田藤政, 恩地森一: 自己免疫性胆管疾患のオーバーラップ 異時性 PBC/AIH オーバーラップ. *肝胆膵* 2011; 62: 693-698.

阿部雅則, 恩地森一: 新時代のウイルス性肝炎学 HBV 感染に対する免疫応答機構. *日本臨床* 2011; 69 Suppl 4: 369-373.

阿部雅則, 恩地森一: 新時代のウイルス性肝炎学 B型慢性肝炎に対する免疫療法. *日本臨床* 2011; 69 Suppl 4: 503-506.

阿部雅則: 肝疾患の免疫病態の解明に向けて 消化器と免疫 48: 159-160, 2011.

恩地森一, 阿部雅則: 自己免疫性肝炎診療・研究の現状と今後. *日本消化器病学会雑誌* 2011; 108: 1823-1836.

### 【翻訳】

阿部雅則, 恩地森一: 国際診断スコアリングクライテリアによる自己免疫性肝炎確診例と疑診例の比較 *Review of Gastroenterology and Clinical Gastroenterology* 2011; 6: 38-40.

飯島克己監訳: /100 Cases in Psychiatry 心の診療 100 ケース プライマリ・ケアで押さえない精神医学的キーポイント、メディカルサイエンス・インターナショナル、東京、2012.

### 【学会発表】

第14回日本病態栄養学会年次学術集会 (2011年1月15-16日、横浜市)

阿部雅則, 濱田麻穂, 川崎敬太郎, 多田藤政, 三宅映己, 上田晃久, 徳本良雄, 古川慎哉, 松浦文三, 恩地森一

肥満者の内臓脂肪組織における B cell-activating factor (BAFF) の発現

**第 22 回日本老年医学会四国地方会（2011 年 2 月 20 日、高知市）**

加藤丈陽、川本龍一、田原康玄、小原克彦、三木哲郎  
地域女性住民における  $\gamma$ -GTP とメタボリック症候群との関係

**第 108 回日本内科学会総会（2011 年 4 月 15-17 日、東京都）**

川本龍一、楠木 智、小原克彦、田原康玄、三木哲郎、加藤丈陽、阿部雅則  
地域在住者における血清高分子量アディポネクチン値は軽度腎機能障害と関係している

高山宗三、川本龍一、阿部雅則、恩地森一

総頸動脈硬化症に対する加齢とメタボリック症候群との関係

**第 104 回日本内科学会四国地方会（2011 年 5 月 8 日、高知市）**

加藤丈陽、大塚伸之、川本龍一、楠木 智  
CT で診断した化膿性脊椎炎の 1 例

**第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会（2011 年 5 月 19-21 日、札幌市）**

阿部雅則、濱田麻穂、川崎敬太郎、多田藤政、三宅映己、古川慎哉、松浦文三、恩地森一  
B 細胞活性化誘導因子(BAFF)によるインスリン抵抗性の誘導

**第 47 回日本肝臓学会総会（2011 年 6 月 2-3 日、東京都）**

阿部雅則、真柴寿枝、銭谷幹男、海老沼浩利、広石和正、吉澤要、鈴木義之、山本和秀、大平弘正、  
青柳豊、松崎靖司、森實敏夫、恩地森一  
ワークショップ 自己免疫性肝疾患 upgrade  
自己免疫性肝炎の新しい病態への診療上の対応について

濱田麻穂、阿部雅則、多田藤政、三宅映己、徳本良雄、川崎敬太郎、古川慎哉、日浅陽一、松浦文  
三、恩地森一

ワークショップ NASH—我が国の実態と発生機序の解明に向けて  
NAFLD, NASH の病態形成における B cell activating factor (BAFF) の役割

**第 29 回日本肥満症治療学会学術集会（2011 年 6 月 10-11 日、京都市）**

阿部雅則、濱田麻穂、三宅映己、古川慎哉、松浦文三、恩地森一  
内臓脂肪組織における B cell-activating factor (BAFF) の発現と肥満との関連

**第 53 回日本老年医学会学術集会（2011 年 6 月 15-17 日、東京都）**

川本龍一、楠木 智、田原康玄、小原克彦、三木哲郎、加藤丈陽  
地域在住者における高感度 C-reactive protein と  $\gamma$ -GTP はメタボリックシンドロームと相乗効果的に  
関係している

**第 2 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2011 年 7 月 2-3 日、札幌市）**

川本龍一、阿部雅則、楠木 智、大塚伸之、小田原一哉、恩地森一  
地域住民を対象としたノルディックウォークと ICT を活用した管理指導の試み

**第 48 回日本消化器免疫学会総会（2011 年 7 月 21-22 日、金沢市）**

阿部雅則、陳式儀、ファズレ アクバル、日浅陽一、恩地森一  
肝臓に存在する Myeloid-derived suppressor cell の機能解析

**第 53 回日本消化器病学会大会（2011 年 10 月 20-23 日、福岡市）**

阿部雅則、濱田麻穂、恩地森一

シンポジウム 肥満と消化器疾患

アディポカイン産生調節からみた内臓脂肪組織における BAFF の役割

熊木天児、畔元信明、阿部雅則

ワークショップ 自己免疫性肝障害・薬物性肝障害の up-to-date

原発性胆汁性肝硬変において治療反応性および肝線維化の進行に寄与する因子

**第 39 回日本肝臓学会西部会（2011 年 12 月 9-10 日、岡山市）**

眞柴寿枝、多田藤政、阿部雅則

パネルディスカッション 自己免疫性肝疾患の病態と治療

自己免疫性肝炎急性期の臨床像と予後

**【研究会・その他】**

**第 2 回中国四国ブロック家庭医療後期研修プログラム WS（2011 年 2 月 11 日、岡山市）**

川本龍一、阿部雅則、楠木 智

家庭医養成愛プログラム

**地域医療研究会（2011 年 2 月 12 日、宇都宮市）**

川本龍一

地域医療と私

**第 2 回愛媛動脈硬化フォーラム（2011 年 2 月 24 日、松山市）**

川本龍一

頸動脈内膜中膜肥厚度測定の有用性

阿部雅則

B 細胞活性化因子によるインスリン抵抗性の誘導と内臓脂肪

**長寿社会づくりソフト事業費交付金（研究事業） 研究成果の審査会（2011 年 3 月 9 日、下野市）**

川本龍一

メタボリックシンドローム予防に関する介入研究

**第 1 回肥満と消化器疾患研究会（2011 年 5 月 13 日、東京都）**

濱田麻穂、阿部雅則、三宅映己、川崎敬太郎、多田藤政、古川慎哉、松浦文三、恩地森一

シンポジウム 内臓脂肪型肥満の成立と臓器障害

内臓脂肪形成とインスリン抵抗性誘導における BAFF の役割

**第 11 回愛媛プライマリ・ケア研究会（2011 年 7 月 9 日、松山市）**

加藤丈陽、川本龍一、楠木 智、大塚伸之、田原康玄、三木哲郎、小原克彦、阿部雅則

地域住民を対象とした ICT 活用による動機付けとノルディックウォークの効果に関する検討

**第 47 回日本肝癌研究会（2011 年 7 月 28-29 日、静岡市）**

阿部雅則、眞柴寿枝、青柳 豊、広石和正、吉澤要、恩地森一

ワークショップ 自己免疫性肝炎（肝硬変）からの肝細胞癌

本邦の自己免疫性肝炎における肝細胞癌の合併



第 25 回肝類洞壁細胞研究会（2011 年 12 月 17-18 日、東京都）  
阿部雅則、陳 式儀、ファズレ アクバル、日浅陽一、恩地森一  
肝の Myeloid-derived suppressor cells (MDSC)による肝免疫調節

**【講 演】**

愛媛大学医学部ウインタースクール（2011 年 3 月 4-5 日、今治市）  
川本龍一  
地域医療学講座の活動

第 55 回愛媛肝臓病研究会（2011 年 3 月 26 日、松山市）  
阿部雅則  
自己免疫性肝炎の実態と病態

のむらいいき健康大学（2011 年 5 月 7 日、西予市）  
川本龍一  
今日からはじめる健康づくりー自分らしくいきいきと生きるためにー

上越コミュニテイメディスン研究会（2011 年 7 月 16 日、上越市）  
川本龍一、阿部雅則、楠木 智  
地域医療における地域を活性化する取り組み

愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター開設記念シンポジウム（2011 年 8 月 1 日、東温市）  
川本龍一、阿部雅則、楠木 智  
地域を活性化する取り組み

SPOD （2011 年 8 月 25 日、松山市）  
川本龍一、阿部雅則、楠木 智  
医学部学生への地域医療実習のための評価ツールの事例

久万高原町地域医療「健やか元気な町づくり」（2011 年 11 月 16 日、久万高原町）  
川本龍一  
地域医療における地域を活性化する取り組み

第 15 回日本老年医学会高齢者介護看護医療フォーラム（2011 年 12 月 10 日、松山市）  
川本龍一  
在宅医療と地域連携～西予市立野村病院での取り組みを通して～

**【研究費】**

代表  
川本龍一  
財団法人地域社会振興財団：メタボリックシンドローム予防に関する介入研究（2011 年 4 月～現在）  
総務省ユビキタスタウン事業：明るく、楽しく、老いる街づくり（2010 年 4 月～現在）

阿部雅則

愛媛大学研究活性化事業萌芽研究

新規アディポカイン BAFF によるインスリン抵抗性誘導機構の解析 (2011 年 6 月～現在)

協力

HOMED-BP 研究 (2001 年 9 月～現在)

高齢者高血圧コホート研究 (2004 年 10 月～現在)

Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective Study (2008 年 6 月～現在)

EWTOPIA 75 試験 (2010 年 4 月～現在)

## そ の 他

### 【教育活動】

地域医療学講座西予市地域サテライトセンター

初期研修医（地域医療）2011年度8名

後期研修医2011年度（地域医療・総合医後期研修コース）1名

### 【委員会活動】

#### 学 内

卒後臨床研修管理委員会（川本）2010年度から

地域医療奨学生ワーキンググループ（川本）2011年度から

地域医療支援センター運営委員会（川本）2011年度から

教務委員会オブザーバー（川本）2011年度から

医師および歯科医師臨床研修委員会（阿部）2009年度から

#### 学 外

愛媛県へき地医療支援計画策定等会議（川本）2005年度から

訪問看護ステーション東宇和運営協議会（川本）2005年度から

愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員会（川本）2007年度から

愛媛大学医学部関連病院長会議専門部委員会（川本）2009年度から

日本老年医学会邦文雑誌編集委員会（川本）2010年度から

野村町リライアブル・タウン基盤構築事業（川本）2010年度から

西予市新市立病院建設推進本部会（川本）2011年度から

済生会松山病院卒後臨床研修管理委員会（川本）2011年度から

愛媛県地域医療再生基金高度看護力開発事業実行委員会（川本）2012年度から

日本消化器内視鏡学会和文誌編集委員会（阿部）2011年度から

### 学会役員・評議員等

日本プライマリ・ケア連合学会評議員（川本） 日本老年医学会代議員（川本）

日本内科学会四国支部評議員（川本・阿部）

日本超音波医学会四国地方会運営委員（川本・阿部）

日本消化器病学会評議員（阿部）

日本消化器内視鏡学会評議員（阿部）

日本肝臓学会評議員（阿部）

日本病態栄養学会評議員（阿部）

日本消化器免疫学会評議員（阿部）



愛媛大教授

住民参加型の  
予防医療紹介

久万高原

久万高原町などはこのほど、同町久万の産業文化会館で「健やか元気な町づくり」講演会を開き、愛媛大医学部教授2人が住民参加型の医療システムなどについて語った。

川本龍一教授は西予市での健康大学の取り組みを紹介。検診で異常があった人を対象に講義や運動療法を行い、卒業後は地域の予防医療のリーダーになってもらうシステムを

解説し、「元気で健康長寿を目指す社会づくりが必要」と訴えた。

同町出身の恩地森一教授は「医療も福祉も産業」と、町立病院の充実や介護関連企業の誘致を図り、人間ドックなどで滞在できるまちづくりを提案した。

愛媛大は2009年から町立病院に地域医療学講座の拠点となるサテライトセンターを開設している。

講演会には、福祉関係者や住民ら約300人が参加。「予防医療の大切さを実感した」などの感想が聞かれた。  
(雲出浩二)



地域医療の実状などを話した川本教授

## 編集後記

昨年は東日本大震災、福島第一原発事故による放射線汚染があり、私達がかつて経験したことのない大問題を現在も抱えています。また、このことは現在日本が抱えている諸問題を浮き彫りにしたともいえます。特に、医療面について考えてみると、高齢化社会への対応と医師不足地域における医療提供体制の確立は、復興に向かっている被災地のみならず日本全体で今後考えていかなければならない重要な課題であると思います。

愛媛大学に地域医療学講座が設立されてから3年半が経過し、本年5月からは4年目の地域医療実習も開始になりました。1年目の地域医療実習をうけた学生のほとんどは現在研修医2年目になり、今後自分達の進路を決めていく時期になってきます。また、地域枠入学生も年々増加し、現在約60名が大学に在籍しており、数年後には県内の医療現場で働くこととなります。これまでの取り組みがどのような成果として現れるのかは愛媛大学と愛媛県にとって大変重要と考えます。アウトカムを実感できるまでにはおそらく長期間の取り組みが必要ですが、当講座は設置年限を来年3月末に控えております。残りの半年間で今までの成果を総括し、課題を明らかにすることで今後の愛媛大学での地域医療教育、長期的には愛媛県の医療体制の充実に貢献できるようにすることも責務の一つではないかと考えております。

今回の年報の発刊に関しては、愛媛大学医学部黄蘭会のご援助を頂きました。第1報から引き続いて御支援を頂いており、坂上博会長をはじめとした会員の先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。また、西予市野村町、久万高原町の行政・医療関係者の方々には学生実習で引き続き御協力を頂いています。特に、今年度からの臨床実習のカリキュラム変更に伴い、西予市立野村病院、久万高原町立病院の両病院のスタッフの方々には多大なご迷惑をお掛けしております。未だもの足りないところも多々あると思いますが、今後とも皆様方の御指導・御鞭撻を頂ければ幸いです。

末筆とはなりましたが、皆様方に御健康と今後のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

編集担当 阿部雅則